

令和7年度組織目標 知事協議概要

部 局 名	琵琶湖環境部
日 時	令和7年(2025年)4月21日(月) 15:10~15:55
場 所	特別会議室
出 席 者	知事、東副知事、岸本副知事、知事公室長、総合企画部長、総務部長、総務部管理監 部長、次長、管理監(クリーンセンター滋賀担当、最終処分場特別対策室長事務取扱)、技監 (下水道担当)、技監(森林政策・未来の森づくり担当)、環境政策課長、主席参事(環境企画担 当)、琵琶湖保全再生課長、循環社会推進課長、下水道課長、森林政策課長、びわ湖材流通推進 課長、森林保全課長、自然環境保全課長、鳥獣対策室長

発言者	発言概要
総合企画部長	木質バイオマス発電は、どの程度上げることができるのか。
技監(森林政策・未来の森づくり担当)	県内では木質バイオマスの量が足りないため、大々的に木質バイオマス発電を推進することは難しいものの、現存する木質バイオマスを有効に利用するため、まずは、木質バイオマスをどのようにして出すかということを企業とも連携しながら検討したい。
知事	あまり広げようとせず、例えば地域や企業を絞りこんで、集中的に進めても良いのではないかな。
技監(森林政策・未来の森づくり担当)	身の丈にあったやり方もあると思う。すでに取り組んでいる企業とも相談しながら進めたい。
総合企画部長	木質バイオマスの量が足りない理由は。
技監(森林政策・未来の森づくり担当)	全国の都道府県と比較しても森林面積が小さく木質バイオマスの量が少ないということがある。加えて、搬出が困難な地域があるということもある。
知事	すでに取り組んでいる企業があるのであれば、まずはそこがうまくいくようにすることが重要である。「こうすればできる」ということを示すことができれば良いと思う。
部長	企業の取組がうまくいくには、県として何をするべきか考えながら進めたい。
総合企画部長	CO ₂ ネットゼロ推進計画の改定にも関わること。木質バイオマス発電は、できるだけ進めて欲しいと思っている。
知事	CO ₂ ネットゼロ推進計画も踏まえて、また議論しよう。
知事公室長	伊吹山の保全対策の話があった。県内各地で獣害が発生している。自然災害が発生した時に他の山でも同じようなことが起こるかも知れない。そのことについて、現時点でどこまで調べているのか。
自然環境保全課長	シカの食害による下層植生衰退度調査を森林部局で実施しているが、下層植生の衰退と土壌流出が直接関係しているわけではない。今回の伊吹山の災害は当該地の岩質や土質、そして雨が複合的に関連して発生した特徴的なもの。同じような災害が県内の山で発生するかと問われた場合、明確にはお答えできない。なお、植物の多様性の保全という意味では、全国的に見てもシカの捕獲は進めるべきと言われている。
知事公室長	人が山に入らなくなったことにより山が荒れたと言われている。シカの食害だけでなく、他の要因でも地滑りなどの災害が発生することもあるのではないかな。
森林保全課長	他の要因でも災害が発生することはあり得る。県内には約1万箇所の治山施設があると言われている。その中で災害を防止するためになんらかの対応が必要と思われる施設が約750箇所あるという調査結果がある。現在、特に危険な場所がないか点検しているところであるが、近年の異常気象による豪雨等により土石流等の災害が発生するおそれが高まっていることから、組織目標にもあるとおり対象施設を100箇所追加することにした。
部長	加えて、衛星画像を利用して森林の荒廃状況を確認する。シカ以外の要因で災害が発生することも想定されるので、しっかりと対応したい。

知事	自然環境保全課の組織目標にある「ネイチャーポジティブに係る企業の野心的な取組を促進する認証制度の見直しと金融機関と連携したインセンティブの導入」について、どのようなスケジュールで行うのか、後日、教えて欲しい。
総務部長	下水道について、滋賀県ならではの悩みなどあれば教えて欲しい。
下水道課長	琵琶湖の水質保全を下水道施設が担っている。災害が起きた時に応急対応として処理レベルを落として公共用水域に放流することが全国的にはある。そのようなことをしなくても良い仕組みの検討が必要になると思う。
知事	とても重要な話。先の八潮市の事案でも処理レベルを落として放流されていた。琵琶湖で同じような対応をすればどうなるのか、常に意識して取り組むことが重要である。
東副知事	「豊かないのちを育む琵琶湖を目指した部局間連携」について、「その検討結果を琵琶湖環境研究推進機構の次期テーマに位置付ける」とある。水産部局と連携して進めることになると思うが、まずは内部で調査等を行い、その上で機構の研究テーマを設定するのか。国立環境研究所は機構の構成員なのか。
主席参事（環境企画担当）	今年度から研究テーマの具体的な検討を開始する。水産部局とも連携して進める。国立環境研究所は機構の構成員ではない。
部長	国立環境研究所には、研究推進顧問として機構に参加していただいている。
岸本副知事	「次の30年を見据えた新しい琵琶湖博物館の姿の検討」とある。琵琶湖博物館は、滋賀県にある文化施設の中心的な施設という意識を持ち、しっかりと取り組んで欲しい。
環境政策課長	次の30年に向けた大きな課題として、施設の老朽化がある。その対応について昨年度検討した。現在の琵琶湖博物館の組織体制で老朽化対策を行うことは困難である。総務部とも相談しながら、計画的に、5年、10年単位で考えていきたい。
知事	いつ考えるのか。
環境政策課長	現行の中長期計画の計画期間が後5年ある。この間に考えたい。今年度から検討を開始し、中長期計画に施設改修の進め方について検討するということを盛り込みたい。
知事	今の琵琶湖博物館がどうなっているか聞かせて欲しい。その上でどうしたいのか議論し、その実現に向けて効果的、効率的な改修の進め方を検討しよう。5年かけて検討するのは冗長すぎる。スケジュールも含めて議論をしよう。人が必要ということであれば人をつければ良い。費用が必要ということであればその算段も必要である。
部長	今年度の中長期計画の見直しを行う。課題と進め方を整理して、知事に上がりたい。
知事	世界湖沼の日について、今後どうするのか。グローバルサウスと連携すれば良いと思っている。万博のレガシーをどうするかにも関連すること。
	琵琶湖環境部が関西広域連合広域環境保全局の事務局であることを念頭において、琵琶湖環境行政を語るようにしよう。
	滋賀プラチャレンジは良い取組である。また、家具のリペアには期待している。実証に向けて何が課題となるのか教えて欲しい。おもてなし清掃は、もう少し早めることはできないか。
循環社会推進課長	9月に開催する予定である。7月1日にも清掃を行う。
知事	7月1日をおもてなし清掃にして広く呼びかければ良い。
	自然公園におけるパークPFIの導入について検討して欲しい。パークPFIは、都市公園で進められており国交省の管轄ということであれば、滋賀県独自で「しがパークPFI」を導入する、ということも考えている。

上下水道一体化について、とりうる選択肢を示しながら議論することは良いこと。難しい課題もあると思うが、議論が進むように一緒に努力していきたい。
造林公社について、5月に4回目の検討会があり8月にとりまとめということなのでこの4月、5月に密な協議をお願いしたい。
最終処分場については、住民の方が栗東市の計画と一体的な利用を考えて欲しいという意見があるのもわかる。様々な課題があると思うがしっかりと対応しよう。